

事件の表示 平成11年(ワ)第764号, 平成12年(ワ)第5341号

証 人 調 書

(この調書は, 第15回口頭弁論調書と一体となるものである。) 裁判所書記官印

期 日 平成15年3月26日午後1時30分

氏 名 高 橋 信

年 齢 60歳(昭和17年7月21日生)

住 所 名古屋市千種区希望ヶ丘1-5-37

宣誓その他の状況

裁判官は, 宣誓の趣旨を説明し, 証人が偽証をした場合の罰を告げ, 別紙宣誓書を読みあげさせてその誓いをさせた。

陳 述 の 要 領

別紙反訳書のとおり

以 上

原告ら代理人（森）

あなたは、大学卒業後、非常勤講師を経て現在の熱田高校まで、ずっと高校の教員をなさっていますね。

はい。ただ、94年から2000年まで、教職員組合の役にいましたので、その間は教壇には立っておりませんでした。

甲A第8号証を示す

この陳述書の署名押印というのは、あなたがなさったものですね。

はい、そうです。

この書類の内容は、あなたがお話になったことを代理人のほうでまとめたということで間違いないですね。

はい、そうです。

最後に「経歴」というページがありますが、高校教員の経歴はここに書いてあるとおりのことです。

はい、そうです。

あなたが教師になってからの歴史教育のテーマや手法で、何かヒントになったことはありますか。

はい。非常勤講師の2年目でした。1966年10月に、名古屋歴史科学研究会の例会で、強制連行の調査の草分け的存在でもあり、強制連行という言葉が歴史学的にも最初に使われた朴慶植さんの講演を聞きました。

その講演の内容は、こういったものですか。

日本近代史における朝鮮というテーマでした。

その朴慶植さんの講演を聞いて、どういうところに衝撃を受けたんですか。

日本近代史において日本の朝鮮植民地支配についてきちっと位置づけるべきであるという話を聞きまして、私は名古屋歴史科学研究会の例会に初めてでしたけれど、大きな顔をして2次会3次会まで行って、

一杯質問をした覚えがあります。

講演を聞いて、何か思うところがあったんですか。

戦時下、日本において、朝鮮人強制連行が炭鉱や鉱山やダムで数十万人の規模で行われて、虐待、酷使、そして虐殺という実態があったという事実に、大変な衝撃を受けた覚えがあります。

そして、それを自分の教育の場面でも何らかの形で生かしていきたいということをおもわれたんですか。

はい。こんな重大な事実がほとんど教科書に書かれていない、これを教えなきゃいかんと思いました。

どうして、生徒さんに、強制連行の事実を教えようというふうにお考えになったんですか。

24歳のころだったと思いますけれど、先ほど申し上げましたように、重大な事実が教科書にほとんど書かれてない、これを教えずに歴史教育は成り立つかとすら思いました。

24歳のときということですから、大学を卒業してすぐのころですね。

そうです。

その後、あなたは、歴史の授業で朝鮮人強制連行の事実をずっと教えられたんですね。

はい。平和教育の一環として、広島、長崎の被爆体験、あるいは沖縄の戦場の体験、そして中国大陆における日本軍の南京虐殺や731部隊などとともに、加害の事実としてきちんと位置づけてきました。

具体的には、どんな授業をなさったんですか。

見たり聞いたり調べたりしたもの、つまり証言や資料や写真を、できるだけプリントにして授業で使いました。時には、スライドにして使ったこともあります。

そういう授業をして、生徒さんたちの反応はどうでしたか。

一言でいえば、集中度、目の輝きが違いました。そして、92年3月の熱田高校の卒業式のことですけれど、卒業していく生徒たちの答辞、いわゆる卒業の言葉の中にこんな一節がありました。世界史で習ったように僕たちは過去に目を閉ざさずしっかりと過去を見ていこう、そうしなければ現在も未来も見えなくなるという、有名なバイツゼッカー元西ドイツ大統領の名言を引用した。そのことが、私の歴史教育の大きな中間点でもあり、励ましでもありました。

先ほど、加害の事実ということをおっしゃったんですが、どうして加害の側面に目を向けなければならないと思ったんですか。

戦争被害は、加害がなければ、ないからです。日清戦争以後アジア太平洋戦争に至るまで、日本は戦争を仕掛け多くの加害をしてまいりました。その結果、日本本土への空襲もあったし、長崎、広島への原爆もあったし、加害がなければ被害はないのだと、そのことを押さえなければ、現代史の本質あるいは戦争の本質を見誤ることになるのではないかと思ったからです。

そして、あなたは地元の軍需工場の強制連行問題に関心を持つようになってくるんですけれども、それはどのようなきっかけからですか。

1985年の秋のことだったと思いますけれども、私が一緒に調査や研究をしてきました小出裕さんは、豊川海軍工廠、これは当時東洋一の工廠といわれ5万6000人の従業員がいたところですけど、その8部門のうちの1部門、火工部と申しますが、そこだけで約150人の朝鮮人が徴用され、豊川海軍工廠で分かっている範囲で23名の朝鮮人強制連行の方々が犠牲になったという事実が分かったことが、大きなきっかけとなりました。

今、1985年とおっしゃったんですが、それは熱田高校に赴任したころと同じ時期ですね。

はい、85年に熱田高校に転勤しました。

熱田高校に赴任されたことと、何か関係がありましたか。

はい。皆さんも御存じのとおり、熱田高校は、愛知機械、愛知航空機製作所の跡地です。1945年6月9日に、その跡地、熱田高校のあの場所に、世界で最初にアメリカが大型爆弾、2トン爆弾を落としたと。そして、わずか8分間の空襲で213名の学徒と2000名を超える市民、工員が亡くなったという事実。もう1つは、真珠湾攻撃で有名な零戦とともに大きな戦果を上げた九九式艦上爆撃機の生産をした大工場の跡地であった。零戦と九九式艦上爆撃機は、135機と、同じ機数が真珠湾攻撃に参加したわけです。正に被害と加害が一つになった跡地に熱田高校ができたんだと。私が赴任したときには、熱田高校の社会科では、平和教育という伝統が脈打っていました。

そうやって軍需工場の強制連行問題に関心を持たれて、具体的に何か行動を起こされましたか。

高校の教師何人かで、今まで強制連行というと愛知県や名古屋から遠い炭鉱や鉱山やダムというふうでしたけれど、軍需工場のメッカともいわれた名古屋、愛知県にメスを入れなきゃいかんということで、愛知県朝鮮人強制連行歴史調査班を発足させました。

それは、いつのことですか。

私が熱田高校へ転勤した年度ですね。しかし、年でいうと、翌年86年の2月のことでした。

そして、名古屋の三菱重工に動員されていた朝鮮人の少女たちの存在を突き止めましたね。

はい。

そのきっかけは、何かあるんですか。

名古屋の市役所に勤めていらして、その時点からさかのぼってですけ

れども、災害対策課で東南海地震の調査をずっとされていらして、その時点では港区役所で港区の歴史をまとめておられた服部巍洋さんから、地震における死没者人名表というものを報告いただきました。

甲G第2号証，甲C第25号証を示す

甲C第25号証というのが、今おっしゃった「地震ニヨル死没者人名表」というものですね。

はい、そうです。

これは、甲G第2号証の別表ということで、名簿みたいな形にして載っているということですね。

そうです。

この資料を見て、こういった事実が分かりましたか。

東南海地震で、道徳工場で59名、大江工場で1人、瑞穂工場で1人。ちょっと待てよということで調べましたら重なりがあることに気が付きまして、道徳工場の59名の中に大江工場と瑞穂工場の2名が含まれている。59じゃなくて57じゃないかなということと、もう1つ衝撃的だったのは、半島挺身隊6名の方々が亡くなっている。その氏名と生年月日と、出身地全羅南道、というふうに書かれていたと思います。

生年月日を御覧になって、年齢も分かりましたね。

分かりました。満年齢で換算しました。13歳が1人、14歳が2人、15歳が2人、16歳が1人ということでした。

甲G第1号証を示す

その後の調査で、大江工場、道徳工場の仕事中に亡くなった殉職者の名簿も手に入れられましたね。

はい。先ほどの服部巍洋さんから頂いた名簿の少し後だったと思いますが、1986年にこの名簿を私たちはお借りしました。そのきっか

けは、朝鮮人強制連行歴史調査班のメンバーでもあり熱田高校の社会科の教師でもあった佐藤明夫先生が、郷土の歴史を調べている高校の教師だけれどということで、三菱の大江工場に出向いて、何か資料はないかという依頼をしたところ、お貸しいただいた名簿であります。

この甲G第1号証は、コピーしたものです。

そうです。

このコピーの原本は、どうされましたか。

鮮明に覚えてます。そして、私の手帳にも明記されております。1986年11月4日、私が車を運転し佐藤明夫先生をお乗せし、お2人で三菱にお返しをいたしました。

原本は、三菱の下にあるということですね。

そうです。

殉職者名簿を入手された翌月の86年12月に、三菱の殉職碑の地下に納めてある亡くなった方の名前が書いてある銘板を確認されましたね。

はい、確認しました。

その銘板というのがあるのは、どうして知ったんですか。

これも私の熱田高校への転勤と重なるんですけど、1985年11月に図書文化部というところ、熱田高校の校務分掌ですけど、その主催で、秋の全国読書週間にちなんで、全校生徒を対象にして、愛知県立大学のかつおきんや先生をお招きして、東南アジアを歩いて、という講演をしていただきました。その最後の部分で、かつおきんや先生が、三菱大江工場の近くに殉職碑があり、台湾少年工、幼い子供たち24名の名前が刻まれている銘板があるよというお話をなさいました。心に深く刻みました。

甲C第65号証を示す

「全国読書週間記念講演」として「東南アジアを歩いてきて」とありますが、

この講演の68ページの部分に、「現在、大江町には細長い四メートル程の殉職慰霊碑があり」とありますが、この辺りのことをおっしゃっているわけですか。

はい、そのとおりです。

この殉職碑の銘板を、拓本にとられたわけですね。

はい、そうです。

拓本にとって、何をしましたか。

銘板を見せていただいて、写真と拓本にとりました。そして、拓本でとったものと名簿の一致性を探しました。

それで、どういうことが分かりましたか。

半島挺身隊、朝鮮女子勤労挺身隊の6名の方を含む、朝鮮半島に本籍を持つとされる約20名の方々の名前が銘板にはない、欠落している。さらに、目を皿にして調べましたら、殉職碑名簿に何かあるなということに気付きました。

甲G第1号証、殉職碑名簿の「ミの部」を示します。何かおかしいというのは、どういったところですか。

8番と9番、日本名で「宮本貞淑」さん、「光沢禮子」と書かれています。1本の横線が引かれています。これは、明らかに抹消の線ではないかと思いました。

8番と9番の宮本さんとか光沢さんのところに、1本線が引いてあると。

そういうことです。

確認しますが、これはあなたが入れたというわけでもないですね。

とんでもないです。

先ほどおっしゃったように、朝鮮半島出身者の名前が銘板のほうからなくなっていたり、今の殉職者の名簿から抹消されていることについて、あなたはどう感じたんですか。

まず、感じる前に、どうして欠落してるのかなというふうに三菱の人に聞こうかなと思いましたが、正にその前に、死人まで差別しているのかと、本当に腹が立ちました。

三菱に確認しようというふうに思ったと今おっしゃいましたが、確認されたんですか。

はい、確認しました。

三菱に確認したら、何とされましたか。

当時の関係者がいないので分からない、この一点張りでした。

三菱は、朝鮮人関係者だけを削除したんですか。

外国人としましては、かつおきんや先生がお話をなさったように、台湾出身の少年工については、名前が24名、日本名ですけど、刻まれています。

朝鮮人の関係者とかを削除した本当の理由というのは、あなたはどのようなふうに思われますか。

本当の理由は当事者しか分からないと思いますが、私たちは私たちにその理由を考えました。1963年12月に銘板ができた。いたい、そのころ、どんな社会情勢だったか。1965年に締結された日韓基本条約に向けて、日韓会談の最中でした。そういう会談の最中に日本の加害の事実をできるだけ表に出さないほうがいいだろうという判断を、三菱と国がなさったのではないかというふうに思っています。しかし、私たちが思っているだけです。死者も差別されてる。そういう欠落の事実。なぜそうしたのか、是非三菱に明らかにしてほしいなあと思っております。

三菱に対しては、何か調査を要求しましたか。

はい。この人たちの名前は日本名である、是非この人たちの遺族を捜しだしてほしいという依頼をしました。

本名の調査も依頼したということですね。

そういうことです。

どうして、本名、韓国名を調査しようというふうに思ったんですか。

創氏改名を1939年に朝鮮半島の人たちに強要された事実は、正に植民地支配の象徴的な事実だと思っています。そういう事実で名前が刻まれてる。こんな屈辱的なことはないだろうと思って要求しました。三菱は、その要求に対して、本名が判明していない人の調査というのを進めましたか。

当時的人がいなくて調査は難しいんですよということで、熱心な調査に踏み込まれる形跡はありませんでした。

三菱が調査に踏み込まないということで、あなた方はどうされましたか。

ならば私たちの手で明らかにしようではないか、微力であるけれどもやってみようではないかと、調査に踏み出しました。

その調査の一環として、88年7月に韓国に行かれましたね。

はい。

韓国のどういうところに調査に行かれましたか。

済州島、木浦、羅州、光州、この4箇所を基本としました。

各地での調査は、どうでしたか。

それはそれは感動的でした。全部申し上げたいんですけど、時間がありませんので羅州の市役所に絞ってお話をします。私たちは、訪韓する前に、先ほどの三菱からお借りした殉職者名簿で本籍地がはっきりしている8名、そのうちの6名が半島挺身隊の方々でしたけれど、その当時の本籍地、現在の役所に照会状を出して調査を依頼しました。その結果、2名の方々の本籍地、除籍簿が発見されました。2名については判明しないという返事を頂きました。あとの2名については返事がありませんでした。6名分の2名が分かり2名が分からないとい

う返事、2名が回答なし。朝鮮半島の空襲の犠牲者の残りの2名についても回答がありませんでした。そういう調査を踏まえて木浦や羅州に行ったんですけれども、羅州からは1名の除籍簿について既に私たちは手に入れてましたけれど、この目で確かめたいということも含めて行きました。よく来てくれたなあ、日本人なのになんでそんなに一生懸命やるんだ、おれたちがやらなきゃならんことを、というふうにして、羅州の市民課の方々に囲まれました。ちょうどお昼になりました。あなたたち、昼食を食べてけよ、ランチを一緒に食べよう、ということでランチもごちそういただきました。そのとき、私は、初めて、水キムチというものがあって、おいしいなあということを感じました。さて、午後、崔貞禮さんの御遺族に会いたいというふうに言いましたら、じゃあ電話をするよ、と言ってくれました。電話をしたけれど、遺族の方は、セマウル運動で忙しいと言ってる、あんたたちが来た目的は何だねと聞いていると。私たちは追悼記念碑を建てたい、皆さんに来ていただきたい、そして当時の状況について証言をしていただきたい、こういう目的だとお伝えしました。そしたら、それなら午後の仕事はあなたたちのために空けようということで空けていただいて、遺族とお会いすることができました。遺族は、冷蔵庫から、韓国風の甘酒だと思いますが、涙と一緒に飲まさせていただきました。

大変感動的な調査だったんですね。

そうです。つらい気持ちも、当然ありました。

甲C第68号証、甲C第69号証を示す

調査によって判明した人がいるというお話がありましたけど、こういう「遺家族安否調査依頼書」といった形で調査を依頼して、これは判明した方のものですかね。

はい。先ほど申し上げましたお2人であります。

甲C第62号証を示す

先ほどお話があった殉職碑銘板についてですが、最初は、「1. 1986年12月撮影」の写真のように、6名の少女の名前は全く書かれていなかったんですね。

はい、そうです。御覧のとおり、書かれておりませんでした。

その後、三菱は、書かれていなかった人の名前というのを書き込みましたか。

はい。私たちが調べて分かった名簿を示しましたところ、88年12月18日の三菱の慰霊祭のときには刻入されたと思います。そのときまでに刻入したいという返事を三菱から頂いていたので。

写真が分かりにくいかもしれませんが、まだ書かれていないところは2段目の一番最後のところですね。

そうですね。

その後、マスコミの協力によって3名の方の本名が分かりましたね。

はい、そうです。CBCから2名、東海テレビから1名、分かりました。

そして、書き込まれたのが、「2. 1991年7月撮影」というものになるんですね。

そうです。私たちは、89年1月6日に三菱が刻入したことを確認しました。2は、それから2年半後の写真です。

「3. 2000年5月撮影」という写真は、1991年7月撮影のものと、何か違いがあるんですか。

はい。2の写真では、一番左側の人の名前が、韓国に多い名前で李というのがありますが、季節の季になっているということで、私どもは89年1月6日に即気が付いて、名前が違っています、残念です、死者を追悼する名前を間違えられるとは。しかも、韓国には、李という名前は非常に多いわけですね。そういう基本的な間違いをされるとは

と、抗議を含めて訂正を要求しました。91年7月現在では訂正されていなかったので2年半は訂正されずに過ぎましたが、その後三菱も訂正をされて、2000年5月のように、季節の季になっていたのが李に変わっております。

その後、3の時点ではまだ本名が分かっていなかった呉吉愛さんの本名が分かったんですね。

はい、分かりました。

どういう経緯で分かったんですか。

1人だけ名前が入ってない。私たちも心を痛めてきましたが、もっと心を痛められたのは原告の1人である金恵玉さんです。金恵玉さんは呉原さんの名前が欠落したままでは私たちは死んでいけないという思いで、私たちが木浦市役所に行って尋ねたときには、一生懸命捜したけれど韓国動乱で資料がなくなつたという回答でした。私たちはほとんどあきらめかけていました。しかし、金恵玉さんは、役所ではなくて学籍簿に的を絞って、痛む足を引きずりながら、木浦の山亭初等学校に行きました。そして、遂に、分厚い学籍簿から、呉原愛子、これが呉吉愛だ、本籍地はここなんだ、そして遺族も弟さんとお姉さんがいることも確認されました。2001年2月24日のことです。土曜日だったと思います。あんたは遺族でもないだろう、見せるわけにいかんということもあったそうですけど、遺族が分からないから遺族を捜してるんだと迫られて、今言ったような事実を索出されました。

そうした原告自身の執念とも言える努力を御覧になって、どのようなことを感じられましたか。

その事実が分かりましたので、電話でその事実が分かったことを三菱に私がお知らせしました。そしたら、資料をお送りくださいということでした。資料をお送りしました。刻入しますという返事を頂きまし

た。名もなくお金もない原告の人や私たちが一生懸命捜して、こういう事実が分かってきたんですね。三菱や国がその気になって心を込めてお捜しになったら、もっと多くの事実が分かるんじゃないかなあと思いました。

甲C第26号証、甲C第29号証を示す

新聞報道ですけれども、先ほどおっしゃった6名の少女が東南海地震で亡くなったというあなた方の調査結果というのは、87年4月30日に新聞各紙でも大きく報道されましたね。

はい、そのとおりです。今写真を見ると、少しちょびひげが生えてますけれども、わずかひげを生やしてた期間にそういうことがあったんだなあと、懐かしく思い出されます。

その新聞報道があって、何か反響がありましたか。

大変な反響がありました。学徒関係者から、たくさんの証言がありました。特に、長野県の現在の丸子実業高校、甲子園にたまに出ますが、その前身である旧丸子農商の方が地震になぞらえて作られた「つぶされた青春」という大部の記録誌を寄せられたし、2番目には彼女たちが住んでいた第四菱和寮の寮長さんの次男であられ、三菱の技能養成工であられた山添達夫さんから2枚の当時の写真と証言。3番目に、三菱青年学校で彼女たちに日本の礼儀作法を教えていたとされる河合志んさんから17枚の写真と証言が寄せられ、さらに、三菱の徴用工であった方々からたくさんの証言がありました。私は、専任の教師でありましたので、放課と昼休みと授業後、授業中にもたくさん電話がかかってきたんですが、放課にお願いしますというようなことを言っていて、電話の対応におおわらわだったことを思い出します。

その中で、関係者の方、山添達夫さんから、当時の給料袋を提供してもらいましたね。

はい、そうです。

甲C第67号証を示す

その給料袋というのは、これのことですね。

はい、そうです。

これは、今おっしゃった山添達夫さんの給料袋ですね。

そうです。御自身がそのようにおっしゃっております。表だと思えますが、表の文言に注目していただきたいと思います。「われ等は 天皇陛下の御ために生き われ等は 天皇陛下の御ために働き われ等は 天皇陛下の御ために死なむ」「三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所」と明記されております。この事実、しっかりと注目していただきたいと思います。

その後、1987年7月に、追悼記念碑を建立する実行委員会を発足させましたね。

はい。朝鮮人強制連行歴史調査班のメンバーと、それから当時三菱の徴用工であられた方々と学徒動員関係の方々と、7月25日に発足させました。

殉職碑というのは三菱が作ってるものであって、追悼記念碑というのはあなた方が作られたものということですね。

そうです。正に作ろうとしてスタートしたところです。

なぜ、追悼記念碑というのを建立しようというふうに思ったんですか。

後世に伝えるには、調査と記録と追悼行事とメモリアル、記念碑がないといけない。ところが、57名の方々が亡くなられた現地にないではないか。そして、57マイナス6、51名は三菱の殉職碑下の銘板に祭られているけれども、ひょっとするとこの少女6名の人たちはどこにも祭られないことになりはしないか。この3点から、記念碑建立を思い付きました。

追悼記念碑建立に向けて、三菱とどういう折衝をされましたか。

4点について質問をしました。1つは、戦時下の動員事情とその戦後処理はいかななものか、全体を明らかにしてもらえないですか。2つ目に、私たちは追悼記念碑を建てるけれども、そのことについての御見解はいかがでしょうか。3点目に、韓国から遺族が来ることになりそうですけど、来られたらどう対応されますか。4点目に、欠落している銘板に刻入していただけますか。この4点を申し上げました。

三菱は、それに対してどういう回答をしましたか。

1点目の動員事情、戦後処理事情については、被害が余りにも甚大だ、当時の関係者がいない、そして伊勢湾台風もありましたし、ということでした。2点目の追悼記念碑の建立については、私どもは私どもで殉職碑があるので関知するところではありません。3点目の韓国からの御遺族については、あなたたちはいったいどこまで要求されるんですか。遺族の人たちを特別扱いにするわけにいかない。戦争責任や戦後補償まで立ち入られるのですか。4点目については、欠落の事実については刻入をしますと。以上です。

そういった三菱の対応を御自身で体験されて、どういうふうに思われましたか。

一言で言えば、非常に冷たいなあ、残念だなあ、これに尽きると思います。

甲C第31号証ないし甲C第38号証を示す

追悼記念碑建立に関しては、このように新聞でも報道されましたね。

新聞で幾つか報道されたと思います。

また反響があったんですか。

また多くの反響がありました。長野県の2校、旧飯田中学、現飯田高校と、先ほど申し上げました旧丸子農商。そして、旧熱田中学、よく

混同されるんですが、現在の瑞陵高校です。それから、旧名高女、名女大高でしょうかね。この4つの学徒の方たちから、現地にそういうものを建てられるのかということで、熱いメッセージと多額の募金を頂きました。熱田中学の方々からは同窓会の総会の場にお呼びいただいて、趣旨を訴えてほしい、そしてその場であなたに募金をお渡ししよう。そのほかいろんな方々から頂きましたが、我々の目標額の2倍に当たる200万円を超える額が集まりました。もう1つは、東海テレビとCBCから、あなた方が調査している事実についてノンフィクションドキュメントを作りたいが協力していただけないかと。私たちは、いいですよ、私たちの事実を隠さず提供しますがマスコミのお力で分かった事実もお教えてください、こんな約束をして取材の協力をいたしました。

ここでも、あなた方の思いに感じ入った熱い思いが寄せられたということですね。

はい、そうです。

CBCとか東海テレビのほうで取材をされたようですが、その取材の結果、何か分かったことがありますか。

東海テレビは、「東南海地震を知っていますか？」というテーマで、東南海地震全体にわたって調べられたんですね。CBCは、6人の少女に焦点を当てて調べられました。2回ほどCBCは取材に行かれたと思いますが、そのうちの1回ですけど、先ほど申し上げました三菱の養成工であられて寮長の御子息の山添達夫さんがCBCの取材に同行されました。大庭ディレクターから帰ってきて伺った話では、半島挺身隊、朝鮮女子勤労挺身隊の調査をすればするほど従軍慰安婦との混同問題があってなかなか調べられない、取材に応じてくれない、応じてくれても顔は出さない、声は出すけど夫がいない時間に限って

やるなど、従軍慰安婦と勤労挺身隊の誤認問題がすごく大きな壁だよと、お聞きしました。同行された山添達夫さんも、その困難さを感じられた。私たちが作りました冊子に、その思いを山添さんも書かれておられます。

取材の結果では、東南海地震犠牲者の3名の本名も分かりましたね。

そうです。3名の本名も分かりました。

今おっしゃった勤労挺身隊が慰安婦の人と一緒にだと思われたり取り違えられたりするという誤認混同問題について、そのほかに関係者の方から聞かれたことはありますか。

はい。今のCBCのディレクターとほとんど同じ時期だったと思いますが、今日こちらにいらしています原告の金中坤さんから、私たちが除幕式に向けて作った冊子に長文のメッセージを寄せていただきました。そこに、勤労挺身隊というのは兵士の慰安婦だったという誤認問題がある、名古屋帰りは兵士の慰安婦だったととらえられる重大な問題が韓国にあるということを、中坤さんはお書きになった。先ほどの大庭ディレクターの話、山添さんの話とともに、私たちは大変な衝撃を受けました。

あなた自身の体験の中で、今おっしゃった誤認混同問題の深刻さというのを感じられたことがありますか。

1988年12月4日の追悼記念碑除幕式に韓国の御遺族の方を招待して、名古屋空港へ出迎えに行きました。マスコミの方々が、亡くなった崔貞禮さんの御遺族に、挺身隊の御遺族として今どんなお気持ちですかと質問されました。御遺族の李敬子さんは、挺身隊という言葉を使うな、韓国でどうなってるか分かるのかと、猛烈に机をたたいて抗議をされました。私たちは抗議をしているということはすぐ分かりました。同行された金中坤さんに即通訳していただきました。今申し